

Oracle XML Publisher によるコンカレント・ リクエストの発行

Oracle ホワイト・ペーパー
2005 年1 月

Oracle XML Publisher によるコンカレント・ リクエストの発行

概要	3
はじめに	3
プロセスの概要	4
Oracle XML Publisher によるデータ定義としてのコンカレント・ リクエストの登録	5
テンプレートの作成	5
RTF テンプレート	6
PDF テンプレート	8
Template Manager によるテンプレートの登録	8
コンカレント・プログラムの定義の修正	10
XML 出力生成のためのレポート設定	10
デフォルト・テンプレートの設定	10
フォームに対する単一または MLS リクエストの送信	11
リクエスト・セットの送信	12
OA Framework におけるリクエストの送信	12
リクエストの再発行	13
コンカレント・プログラムの出力の保持	15
トラブルシューティング	16
最終 PDF 出力が表示されない	16
Output Post Processor サービスの稼働を確認する	16

Oracle XML Publisher によるコンカレント・リクエストの発行

概要

Oracle XML Publisher を使用することで、顧客は使い慣れたデスクトップ・ツールのセットを利用して、既存の Oracle Applications のコンカレント・リクエスト・プログラムによる XML 抽出データに基づいた独自のレポート形式の作成および管理を実現できます。実行時に、Oracle XML Publisher はコンカレント・リクエストの抽出データとカスタム・テンプレートを統合し、PDF、HTML、EXCEL (HTML) 以外にも、EFT および EDI の転送で使用するテキストの出力を生成できます。

Oracle Application Object Library (fnd) パッチ 3435480 では、Oracle XML Publisher でリクエストを効率的に発行するための並行処理の拡張セットを提供します。

- カスタム・レポートを公開するには、Standard Request Submission を使用してテンプレート、言語、出力タイプを選択するだけです。
- リクエストを再発行する場合、コンカレント・マネージャのオプションを使用して、異なるテンプレートまたは異なる出力形式でリクエスト・データを再発行できるようになりました。このほか、新しいリクエストを生成することなく、新しく選択された形式内でデータを表示できます。
- 新しいコンカレント・プログラムの定義フィールドを使用すると、コンカレント・プログラムにデフォルト・テンプレートを割り当てることができます。これにより、ユーザーはリクエストを発行するたびに選択する必要がなくなります。
- 新しいコンカレント・プログラムの定義フィールドを使用すると、コンカレント・プログラムに保持期間を割り当てることができます。これにより、設定された期間が経過するまでページされません。この機能を利用することで、履歴データの再発行オプションをより効果的に活用できます。

はじめに

Oracle XML Publisher の柔軟性は、データ構造からレポートの表示を切り離すことで実現しました。データの集合はコンカレント・リクエストによって処理されますが、新たな機能として、異なるテンプレート・ファイルを使用したレポート出力の表示方法を設計および管理できるようになりました。実行時に、コンカレント・マネージャの出力ポスト・プロセッサは Oracle XML Publisher を呼び出し、設計したテンプレート・ファイルをレポート・データと統合します。これにより、色、画像、フォント形式、ヘッダーおよびフッター、その他多くのフォーマット・

オプションをサポートする、さまざまな公開ドキュメントを PDF で作成できます。または、出力を HTML で表示したり、スプレッドシートにデータをロードしたり、ビジネス・パートナーへ EFT または EDI 経由で転送するための平文ファイルを生成したりすることができます。

独自のデスクトップ・ツールでテンプレートを設計する場合、Oracle XML Publisher は **Template Manager** を使用してレポート・テンプレートとそのデータ・ソースを登録、保持できます。両方が登録されたら、コンカレント・マネージャの **Standard Request Submission** でレポートを実行し、カスタマイズされた出力を生成するだけです。

このホワイト・ペーパーでは、Oracle XML Publisher および Concurrent Processing を使用してカスタマイズされたレポートを作成および公開するためのプロセスの概要を紹介します。このガイドラインは、Concurrent Processing パッチ 3435480 と組み合わせて Oracle XML Publisher 5.0 を使用していることを前提とします。

Oracle XML Publisher の詳細については、『*Oracle XML Publisher User's Guide*』を参照してください。

リクエスト実行の詳細については、『*Oracle Applications User's Guide*』を参照してください。

平行処理の詳細については、『*Oracle Applications System Administrator's Guide*』を参照してください。

プロセスの概要

Oracle アプリケーションでカスタム・レポートを作成および発行するには、次のステップを実行します。

1. Oracle XML Publisher の **Template Manager** にコンカレント・リクエストをデータ定義として登録します。
2. Oracle XML Publisher ガイドラインに従ってテンプレートを設計します。
3. Oracle XML Publisher の **Template Manager** にテンプレートを登録します。
4. レポートのコンカレント・プログラムを設定し、XML 出力を生成します (オプションでデフォルト・テンプレートを選択)。
5. **Standard Request Submission** を使用してリクエストを実行します。Submit Request インタフェースからテンプレート、言語、および出力の形式を選択します。

Oracle XML Publisher によるデータ定義としてのコンカレント・リクエストの登録

XML Publisher では、レポート・データの定義とテンプレートを登録するために Template Manager を使用します。実行時に XML Publisher でデータ・ソースを使用できるように、Template Manager でコンカレント・リクエストをデータ定義として登録します。

データ定義を登録する方法は、次のとおりです。

1. XML Publisher Administrator 権限で Create Data Definition ページへ移動します。移動パス：「**Data Definitions**」→「**Create Data Definition**」
2. 必要なフィールドに入力します。データ定義の Code は、コンカレント・プログラムの略称と一致する必要があります。これは、実行時にコンカレント・マネージャがコンカレント・プログラムで利用できるテンプレートのリストを提供するためです。

この例では、Customer Listing - Summary レポートの略称は"RAXCUS"なので、データ定義の Code も"RAXCUS"になります。

データ定義を登録する上で必要なフィールドの詳細については、『*XML Publisher User's Guide*』を参照してください。



Template Manager によるデータ定義としてのコンカレント・プログラムの登録

テンプレートの作成

テンプレートは、次のいずれかの形式になります。

- eText - EDI および EFT 転送用。詳細は、『*XML Publisher User's Guide*』を参照してください。
- PDF (ポータブル・ドキュメント形式) - Adobe Acrobat による設計。

- RTF (リッチ・テキスト形式) - Microsoft Word による設計。
- XSL-FO、XSL-HTML、XSL-TEXT、または XSL-XML - これは特殊なオプションであるため、このホワイト・ペーパーでは解説しません。

RTF テンプレート

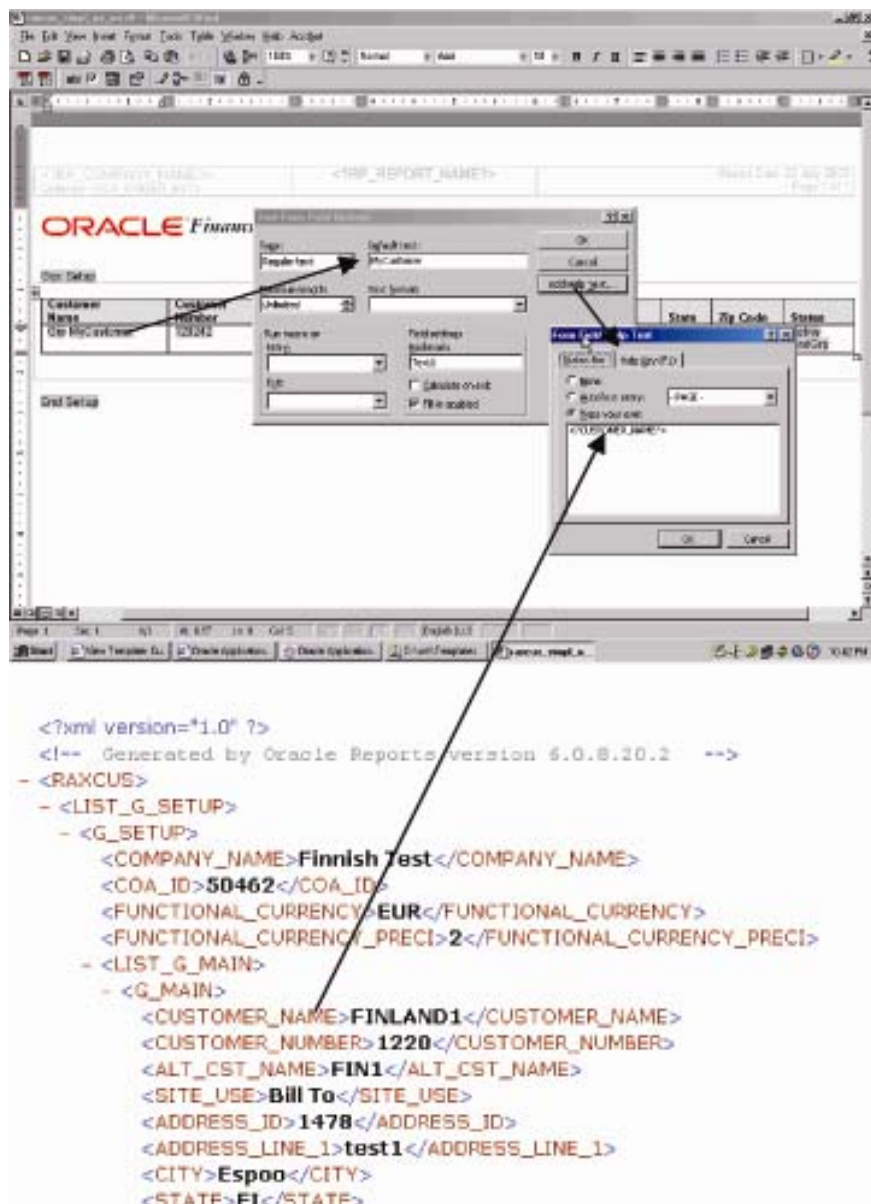
RTF テンプレートは、Microsoft Word で作成できます。Word のフォーム・フィールド機能を使用し、XML データ要素名およびその他の Oracle XML Publisher の構文を挿入します。

RTF テンプレートのポイントは、次のコンポーネントを使用することです。

- フィールドの正確な配置を確立する表。
- 繰り返す要素のグループを定義する "for-each" 構文。
- レポートの XML データ・ファイルから設計されたテンプレートのフィールドへ要素をマッピングするフォーム<?FIELD_NAME?>のタグ。

注: これらコンポーネントおよび使用方法の詳細については、『*XML Publisher User's Guide*』を参照してください。

次の図は、テンプレート・フィールド、フォーム・フィールド、および XML データの関係を示したものです。テンプレート・フィールドの "MyCustomer" は、フォーム・フィールドとして定義されています。XML 要素のタグ名 CUSTOMER_NAME は、フォーム・フィールドの Help Text エントリに挿入されています。これで、テンプレート・フィールドは XML データ・フィールドにマッピングされます。実行時に、"MyCustomer" は XML ファイルの CUSTOMER_NAME の値に置換されます。



MS Word のフォーム・フィールド機能を使用した XML 要素のテンプレート・フィールドへのマッピング

PDF テンプレート

次の VETS レポート・テンプレートは、PDF ドキュメントです。政府の Web サイトから VETS テンプレートを取得して作成したものです。多くの場合、こうしたサード・パーティのテンプレートには、すでに名前の付いた Adobe フォーム・フィールドがドキュメント内に組み込まれています。

COMPANY IDENTIFICATION INFORMATION (Omit it)	
COMPANY No:	<input type="text" value="D_CMPY_NUMBER"/>
NAME OF PARENT COMPANY:	<input type="text" value="D_CMPY_NAME"/>
CITY:	<input type="text" value="D_CMPY_CITY"/>
NAME OF COMPANY CONTACT:	

VETS PDF テンプレートのサンプル・フィールド

Oracle XML Publisher では、すでに提供されている名前を修正するのではなく、これらのフィールドをコンカレント・リクエスト・データ内の XML 要素にマッピングする機能が使用できます。Template Manager に PDF テンプレートを登録すると、テンプレートで Enable Mapping オプションが利用できるようになります。

フィールドを含まない PDF テンプレートの場合は、フィールドを追加するために Adobe Acrobat 製品の完全版を使用する必要があります。

Adobe にフォーム・フィールドを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

1. 自分自身に"分かりやすい"名前のフィールドを作成する。このオプションを選択した場合、これらをコンカレント・リクエストの XML ファイル内の XML 要素へマッピングする必要があります。
2. コンカレント・リクエストの XML ファイル内の XML 要素と同じ名前でフィールドを作成する。このオプションではマッピングの必要はありません。

最後のコンポーネントは XSD ファイルで、XML ファイルを有効化し、説明するためのものです。XSD は、マッピングが必要な PDF テンプレートでのみ必要となります。

Template Manager によるテンプレートの登録

XML Publisher Administrator 権限で Create Template ページへ移動します。移動パス: 「**Templates**」 → 「**Create Template**」

テンプレートの登録時に、テンプレートを既存のデータ定義に割り当てます。公開の段階で、データ定義として登録された利用可能なテンプレートのリストがコンカレント・マネージャの Request Submission インタフェースに表示されます。

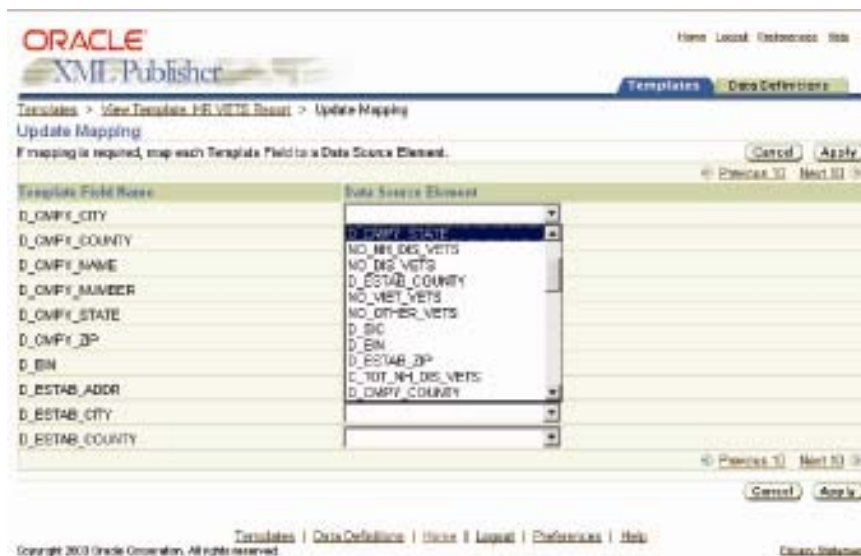
RTF または PDF のテンプレート・ファイルをアップロードし、言語と地域を選択します。



Template Manager におけるテンプレートの登録

異なる言語/地域を組み合わせることで複数のテンプレートをアップロードできます。

PDF テンプレートでは、Template Manager でテンプレート・フィールドをデータにマッピングするオプションが使用できます。マッピング・ページには、テンプレート・フィールド名のリストおよびデータ・ソース・フィールド名のドロップダウン・リストが表示され、XML ファイルの適切な要素を選択できます。



Oracle XML Publisher のマッピング・ツール

Template Manager の詳細と PDF および RTF テンプレートの作成方法については、『XML Publisher User's Guide』を参照してください。

コンカレント・プログラムの定義の修正

Oracle Reports 6i は、出力形式として XML をサポートします。Concurrent Programs のフォームまたは Update Concurrent Program HTML ページからコンカレント・プログラムの出力形式を XML に設定します。

XML 出力生成のためのレポート設定

1. System Administrator 権限で Concurrent Program フォームへ移動します。移動パス：「**Concurrent**」→「**Program**」→「**Define**」
2. レポートを選択します。レポートは XML を生成できなければなりません。Oracle Reports 6i では、XML 出力をサポートします。
3. Output 領域で、Format リストから「**XML**」を選択します。

XML 生成のための Customer Listing-Summary Report の設定

デフォルト・テンプレートの設定

ユーザーが他のテンプレートを選択しない限り、コンカレント・マネージャから Oracle XML Publisher へ送信されるデフォルト・テンプレートを、レポートを公開する形式として選択できます。このデフォルト・テンプレートは、Submit Request フォームに表示されます。この機能を使用すると、ユーザーはレポートを実行するたびにテンプレートを明示的に選択する必要がなくなります。

System Administration 権限で Update Concurrent Program ページのデフォルト・テンプレートを選択します（このフィールドは System Administration からのみ利用可能。System Administrator Forms インタフェースからは利用不可）。

デフォルト・テンプレートを使用したコンカレント・プログラム定義の更新

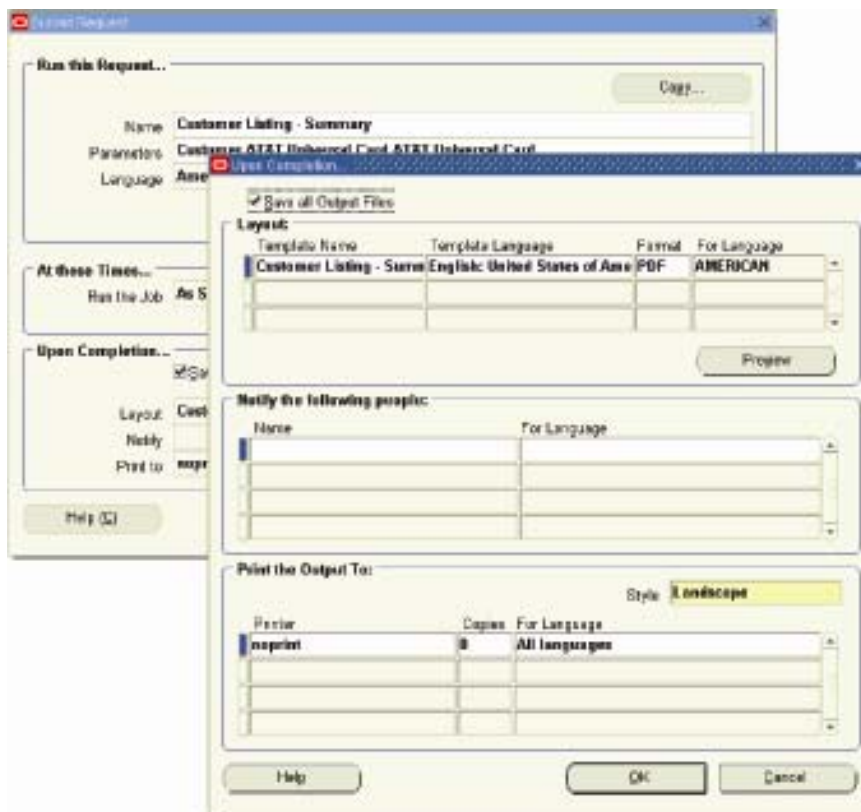
フォームに対する単一または MLS リクエストの送信

適切な権限で Submit Request フォームを使用してコンカレント・リクエストを実行します。デフォルト・テンプレートは Layout フィールドに表示されます。デフォルト・テンプレートを使用しない場合は、「Options…」ボタンを選択します。

Customer Listing - Summary Report レポートの送信

Upon Completion ウィンドウのLayout セクションで、Template、Template Language、および出力用の Format が選択できます。

Upon Completion ウィンドウでは、Oracle XML Publisher のプレビュー機能を起動できます。データ定義と共にプレビュー・データをロードした場合、「Preview」ボタンを選択して選択したテンプレートおよび出力形式による生成レポートのサンプルを表示できます（この動作は OA Framework ページを立ち上げることに注意してください）。



レイアウト・テンプレート、言語、および出力形式の選択

リクエスト・セットの送信

リクエスト・セットを送信するとき、セットのリクエストごとに Upon Completion 設定画面へアクセスしてテンプレートと出力タイプを選択できます。

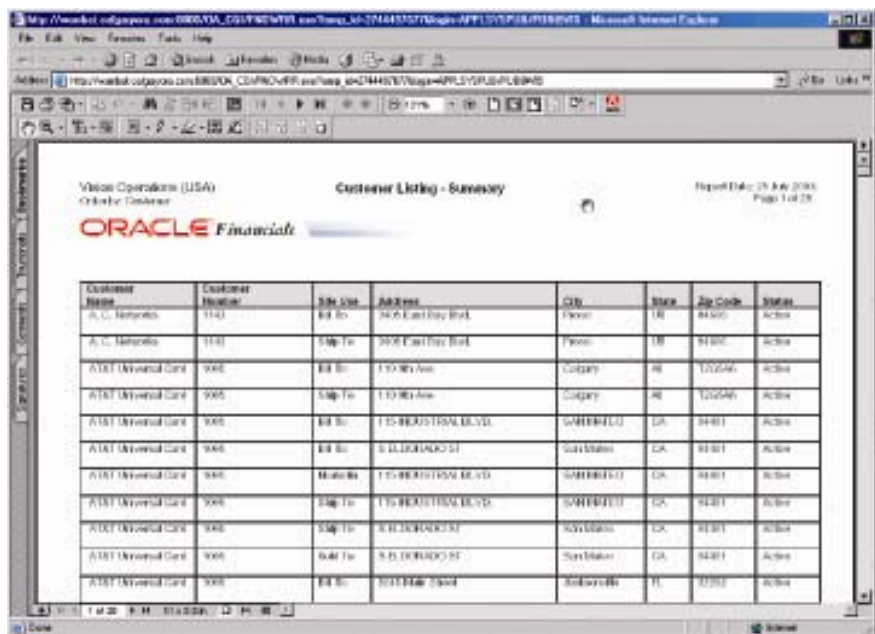
OA Framework におけるリクエストの送信

OA Framework のコンカレント・リクエスト送信フローにおいて、Layout ページでテンプレート、言語、および形式を選択します。プレビュー・データをデータ定義と共にロードした場合、テンプレートをプレビューすることもできます。



Layout ページの OA Framework Schedule Request プロセス

リクエストを送信したら、Requests ページでリクエストを監視し、出力を表示できます。次の図は、PDF 出力による完了リクエストを示したものです。

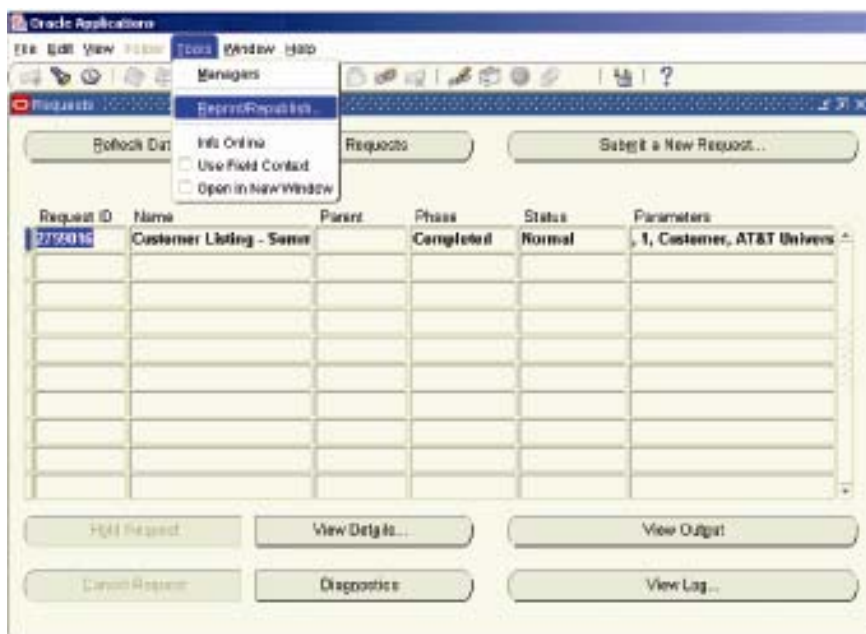


レポートはクライアントから印刷するか、PASTA を使用して Oracle アプリケーションから直接印刷できます。

リクエストの再発行

Concurrent Manager は、完了リクエストから異なるテンプレートまたは新しい出力タイプでデータを再発行できます。

Forms インタフェースの Tools メニューから「Reprint/Republish」を選択します。この動作は OA Framework ページを表示します。



再発行するリクエストの選択

Republish and Reprint Request ページでは、次のオプションが提供されます。

- **Republish and Print** - 完了リクエスト・データの新しいテンプレートおよび出力形式を選択できます。選択したデータ、レイアウト、および出力は Oracle XML Publisher に送信され、リクエスト・データは再発行されます。この動作により、新しい同時リクエストが生成されます。
- **Republish and View** - このオプションは、完了したリクエスト・データの新しいテンプレートおよび出力形式を選択し、表示のみを許可するものです。フォーマット化は、新しいリクエストを生成せずに実行されます。
- **Reprint** - 発行されたリクエストを選択したプリンタへ送信します。

Republish and Reprint Request ページ

コンカレント・プログラムの出力の保持

再発行オプションをより活用するため、Concurrent Program Definition には"Retain for"フィールドがあります。これは、リクエスト出力の"保存期間"を設定するもので、履歴データの再発行を十分に活用することができます。コンカレント・プログラムの出力を保持する日数を入力すると、指定された期間が過ぎるまで Concurrent Request Purge プログラムは出力を削除しません。

出力の消去を回避するための保持日数の入力

トラブルシューティング

発生する可能性のあるエラーと解決するための手順は、次のとおりです。

最終 PDF 出力が表示されない

エラー状況：Requests ウィンドウで「**View Output**」ボタンを選択すると、次のような Adobe Reader のエラーを受信することがあります。"Adobe Reader could not open <your file> because it is either not a supported file type or because the file has been corrupted."

解決方法：これは、Microsoft Internet Explorer の問題です。Internet Explorer のメニュー・バーで「ツール」→「インターネット・オプション」を選択し、インターネット・オプション・ダイアログ・ボックスを開きます。全般タブのインターネット一時ファイル領域で、「設定」ボタンを選択します。設定ダイアログ・ボックスの"保存しているページの新しいバージョンの確認"で「自動的に確認する」を選択します。

Output Post Processor サービスの稼働を確認する

エラー状況：リクエストが出力レポートを生成しません。ログ・ファイルには、"Check that the Output Post Processor service is running."というメッセージが含まれます。

解決方法: Oracle Applications Manager で Output Post Processor サービスを起動します。



Oracle XML Publisher によるコンカレント・リクエストの発行
2005 年 1 月
著者 : Oracle Corporation

Oracle Corporation
World Headquarters
500 Oracle Parkway
Redwood Shores, CA 94065
U.S.A.

海外からのお問合せ窓口 :
電話 : +1.650.506.7000
ファクシミリ : +1.650.506.7200
www.oracle.com

オラクル社はインターネット上での活動を強化するソフトウェアを提供します。

Oracle は、オラクル社の登録商標です。このホワイト・ペーパーで使用されているさまざまな製品名およびサービス名には、オラクル社の商標が含まれています。その他のすべての製品名およびサービス名は、それぞれの会社の商標です。

Copyright © 2002 Oracle Corporation
All rights reserved.